



環境省 戦略的研究開発領域課題 (S-16)

PECoP-Asia

Policy Design and Evaluation to Ensure Sustainable
Consumption and Production Patterns in Asian Region

SDGsとSCP

(持続可能な開発目標と
持続可能な生産と消費)

国立環境研究所

田崎 智宏



本セッションの問いへの回答

- **環境保全と長期的な利益追求は相反しない。**
 - 短期的かつ近視眼的利潤追求が環境を損なう。
 - 企業活動に長期的視点や多元的価値を組み込むのが、CSRであり、統合報告書(IIRC2013)。
会計に組み込むのが複数評価原理の会計(國部2017)
「三方よし」「認識が世界を変える」
 - 企業経営にいかに直結させるかが重要
- 環境保全と経済発展を両立させるには、**社会全体のルール・制度づくり、トランジションの視点が不可欠**
 - 個々人や個々の企業は、社会システムに「埋め込まれた」存在
 - 社会全体に多元的視点をもたらす一つの動向がSDGs



持続可能な開発目標 (SDGs)



17の目標と169のターゲットからなる2030年に向けた世界の目標 SCPは、人間活動と環境保全をつなぐゴール12に位置づけ

SCPと環境問題

- 複雑かつ解決が難しい問題が残ってきている
- 原因と結果(症状)の区別が必要
- 人間活動そのもののあり方が問われている
(対症療法からの脱却)
- 「環境」よりも広い視点で取り組む時代に



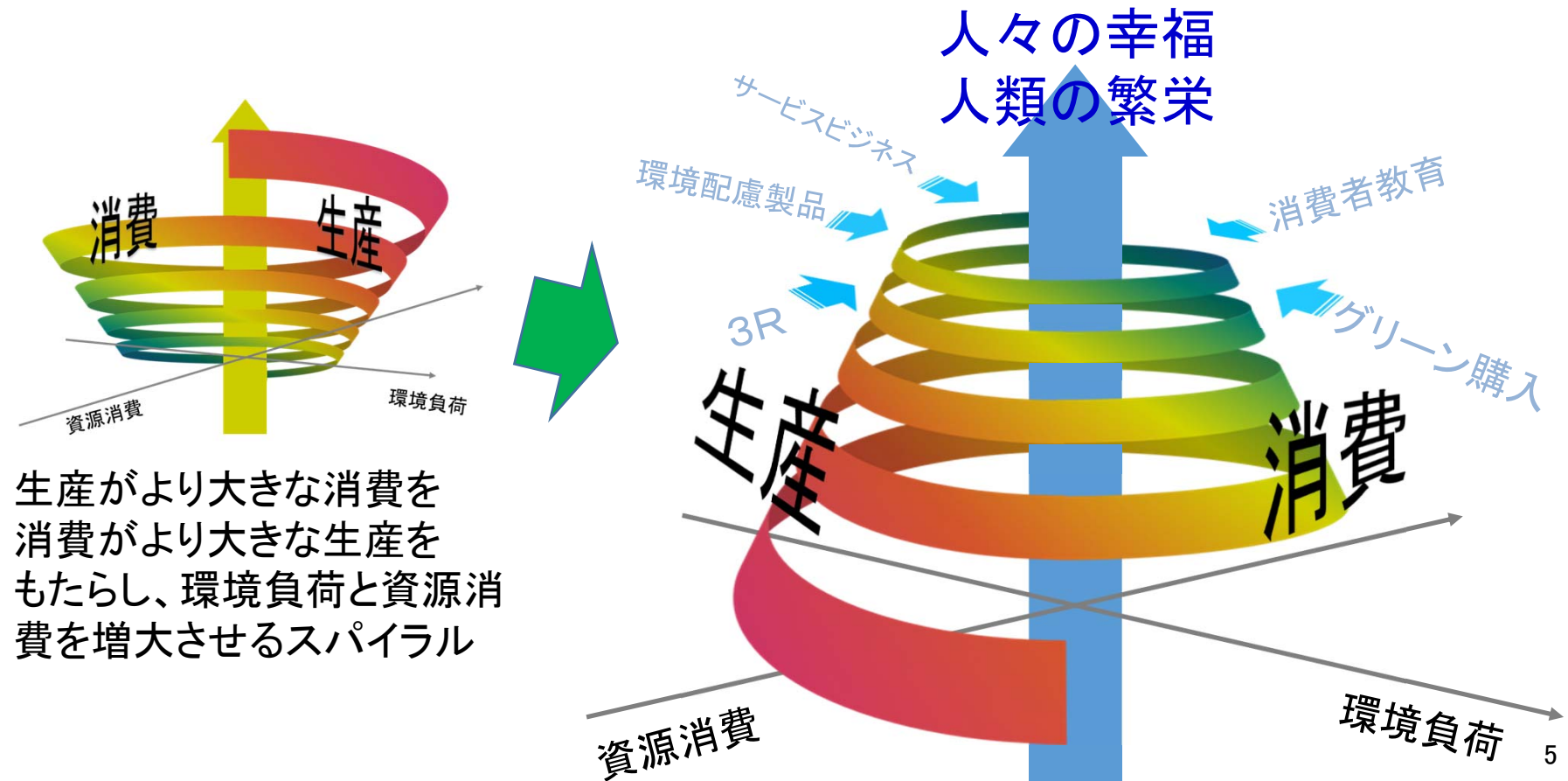
環境省戦略的研究開発領域課題S-16

「アジア地域における持続可能な消費・生産パターン定着のための政策デザインと評価」(研究代表 東大平尾教授、11機関が参画)

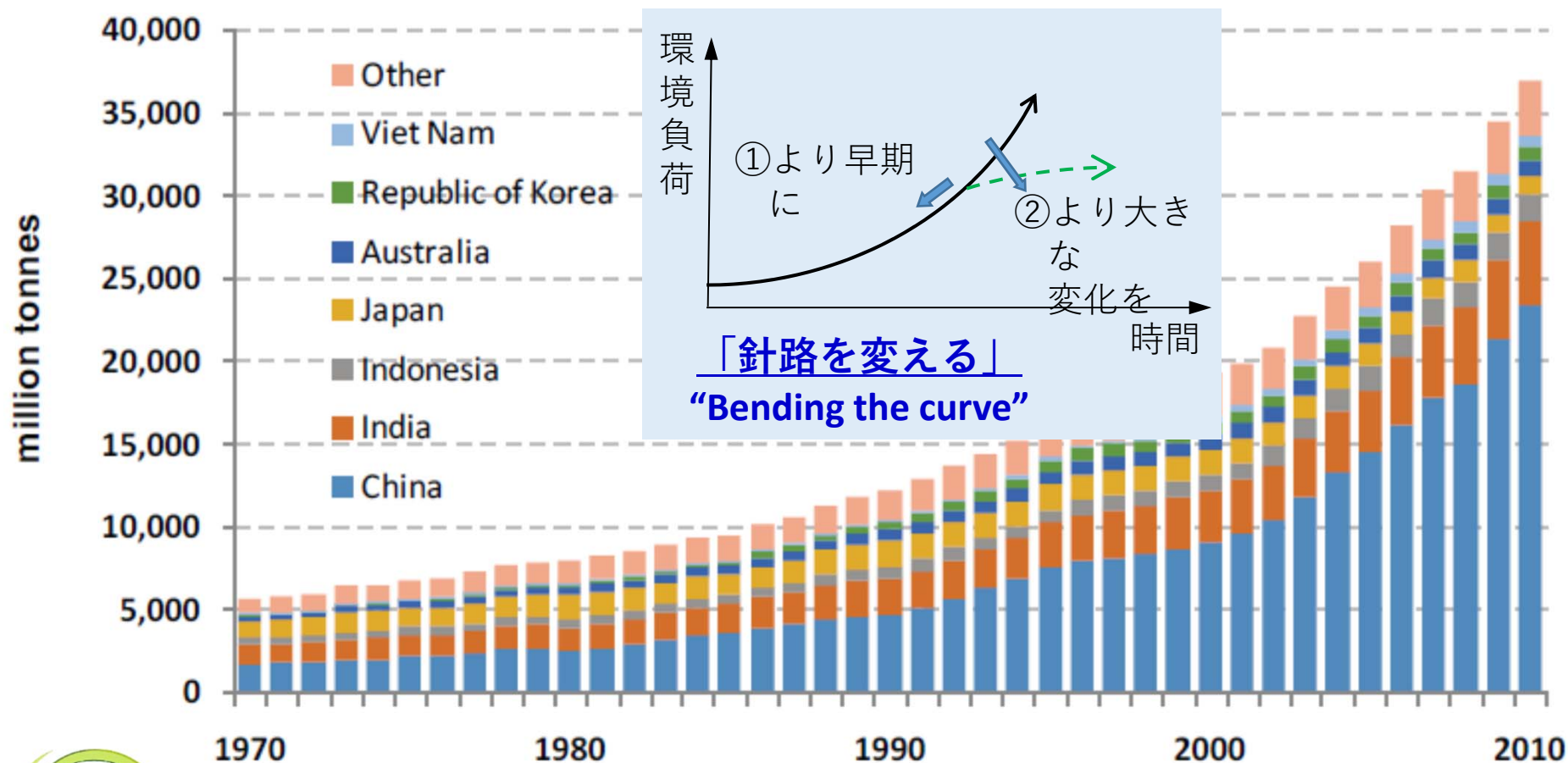


PECoP-Asia

消費と生産の環境負荷・資源消費増大スパイラルを Planetary Boundaries (地球1つ分) の活動に変えていく



アジア太平洋地域における資源消費 国内物質消費量DMIの推移（1970～2010）



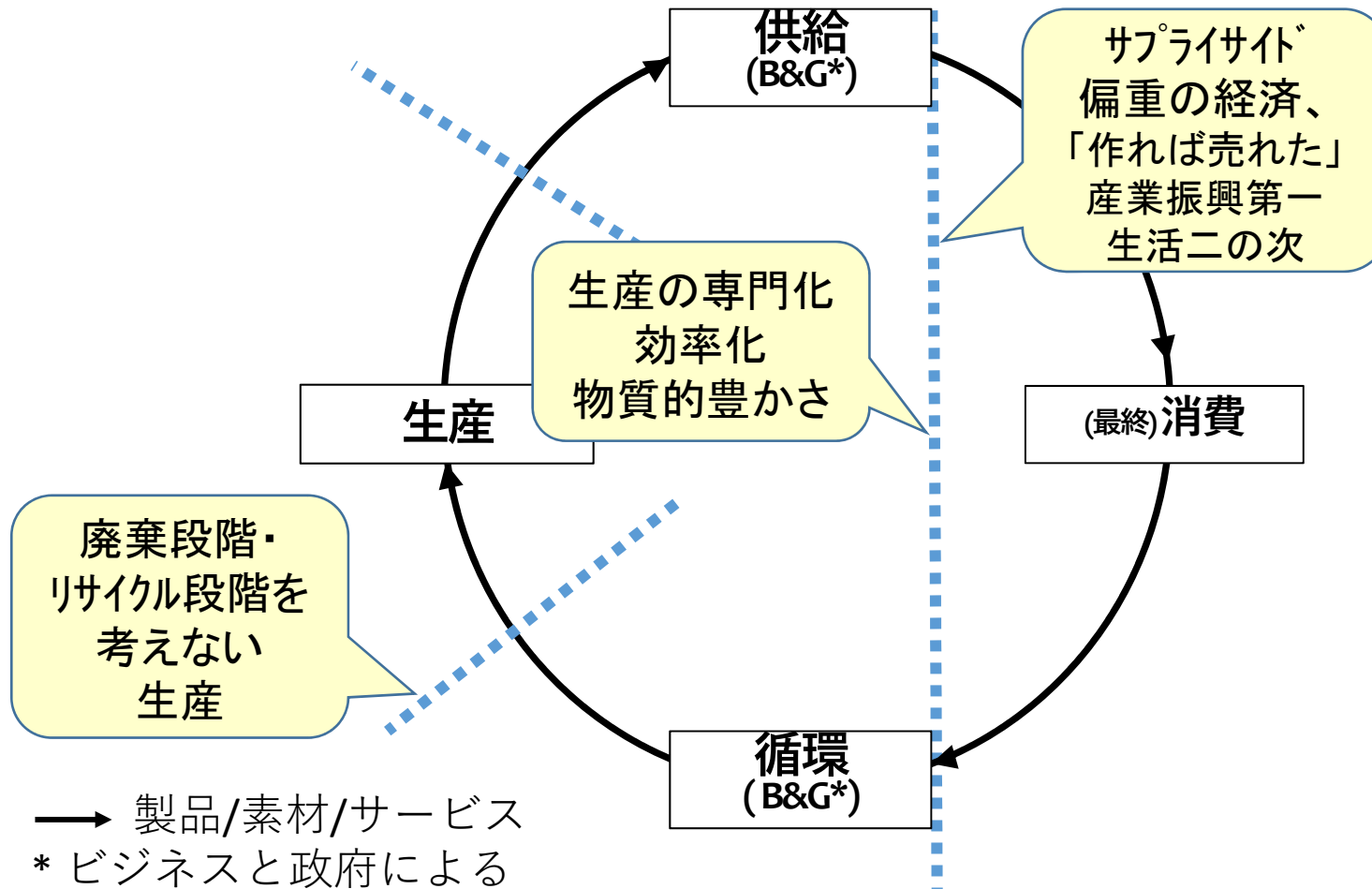
Source: UNEP (2015) Indicators for a Resource Efficient and Green Asia and the Pacific.

分断された生産と消費の構造～現代化の帰結



PECoP-Asia

Production | Consumption

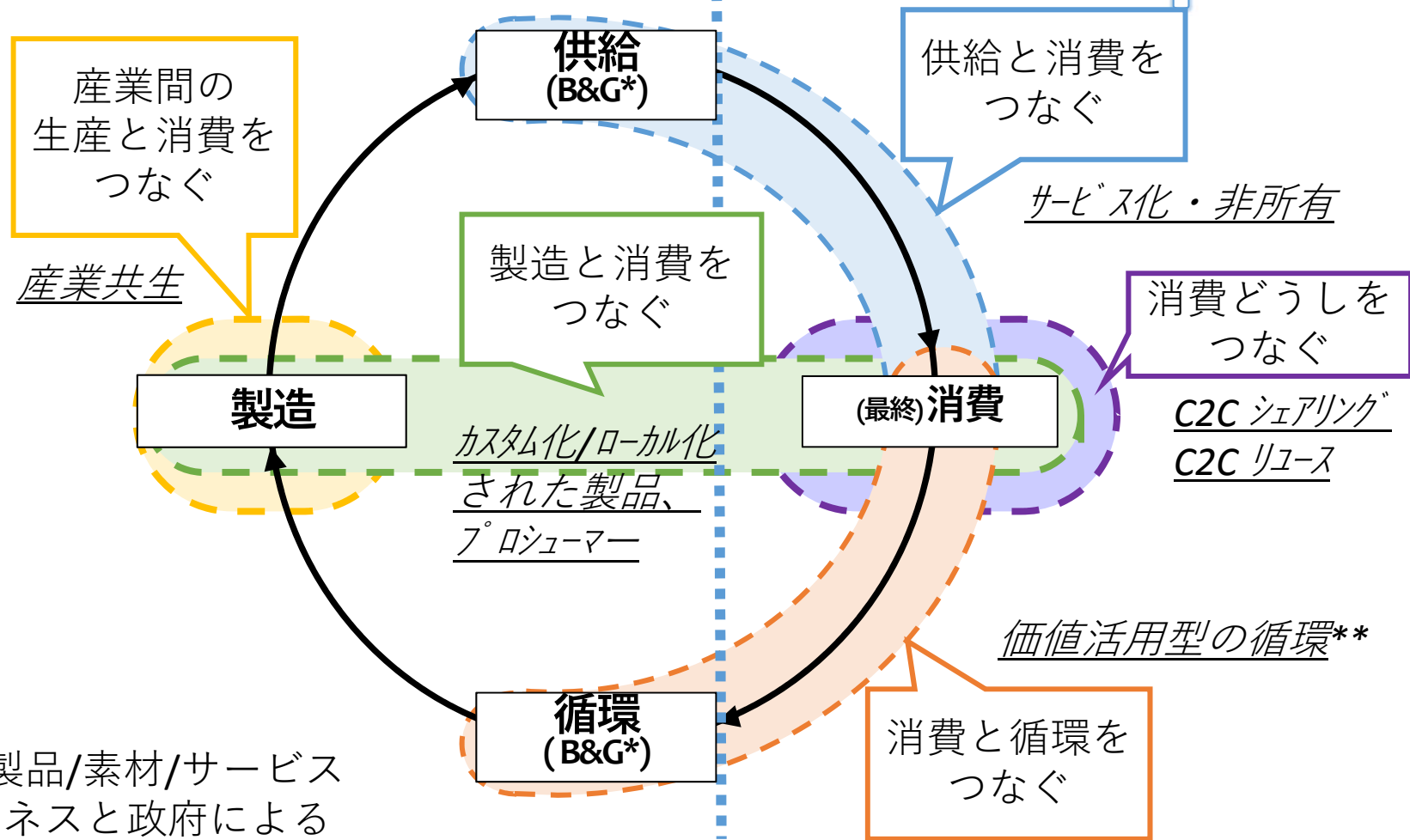


分断された生産と消費をつなぐ5つのアプローチ



PECoP-Asia

Production | Consumption

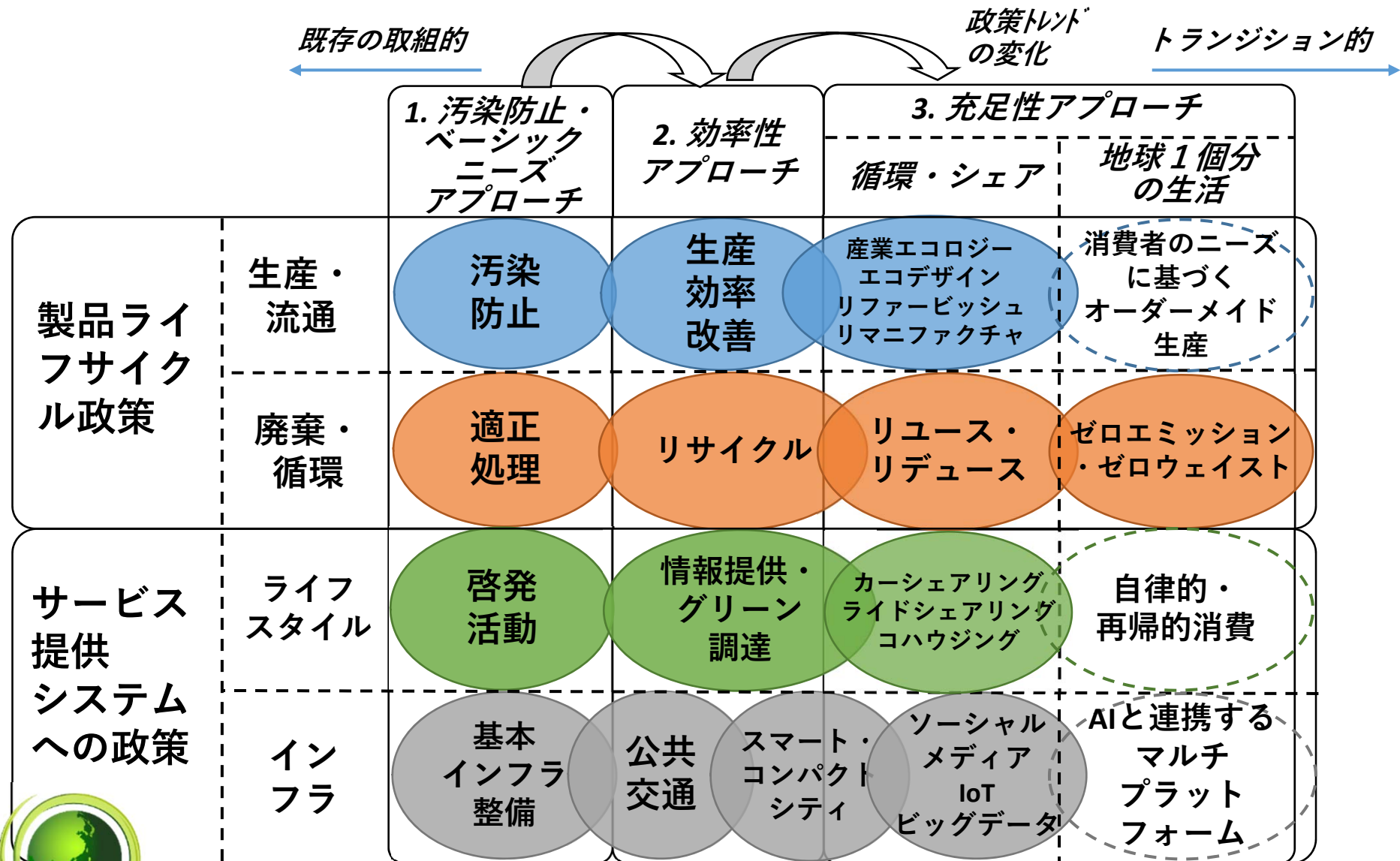


→ 製品/素材/サービス

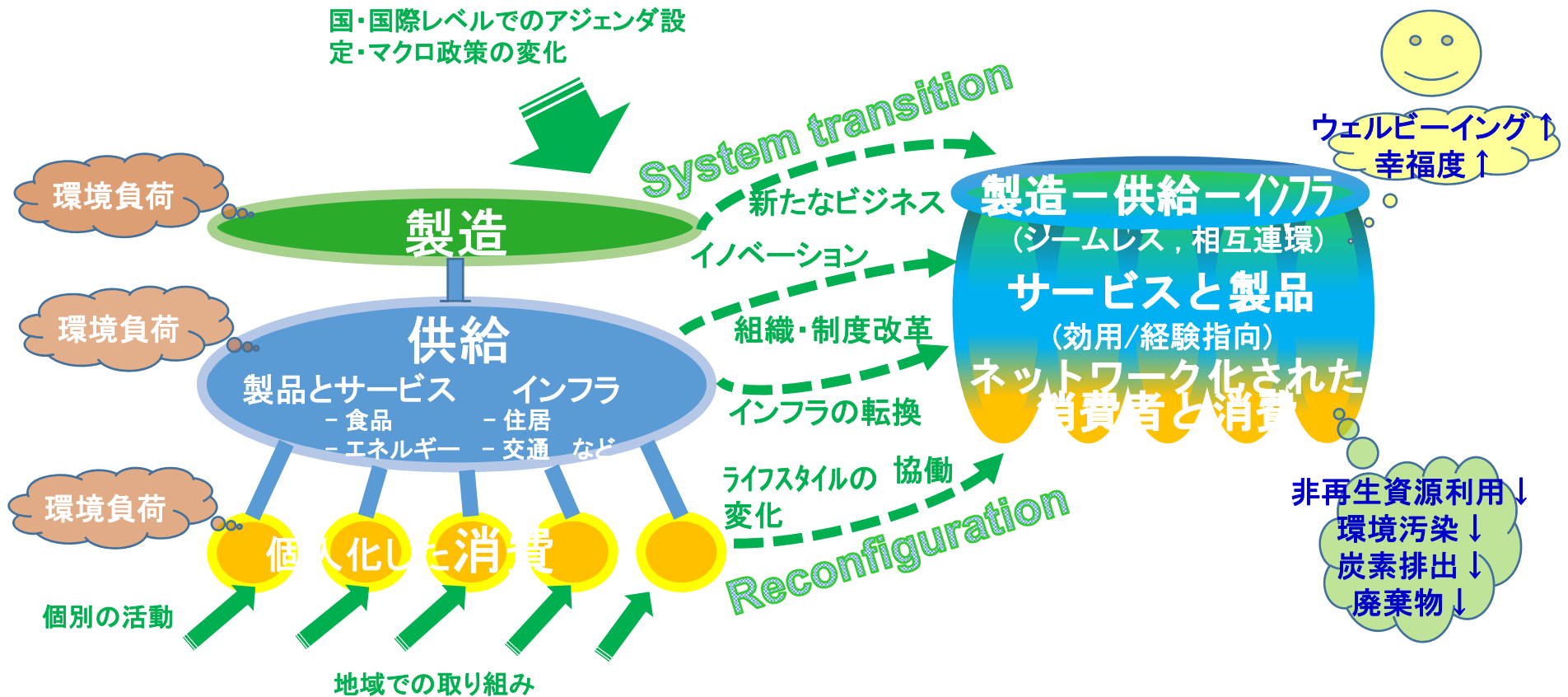
* ビジネスと政府による

** リマニファクチャリング、リファビッシュ、リペア、直接リユース

SCP政策の焦点とメニューの拡大



社会のトランジション～SCPへの転換



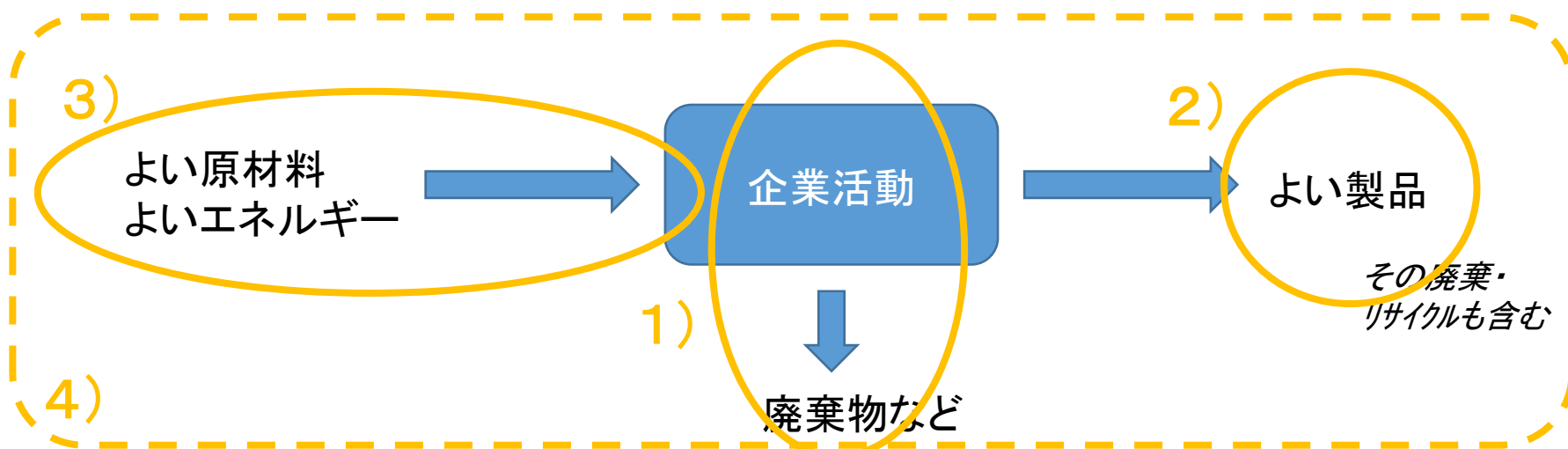
A) 従来型の大量生産・
大量消費システム

B) 生産と消費が相互リンクする
持続型のシステム



SCPに向けた企業の取組の方向性

方向性	取り組み内容
1) よいプロセスにする (クリーナープロダクションCP)	<ul style="list-style-type: none"> ・産業廃棄物最終処分量の削減(リサイクル・リユース) ・資源生産性の向上(リデュース・脱物質化)
2) よい製品をつくる (エコプロダクツEP)	<ul style="list-style-type: none"> ・エコデザイン(省資源化製品、長寿命製品、易解体性・リサイクル性の向上など) ・サービサイジング(シェアリング、レンタル) ・製品廃棄物の回収・リサイクルの実施・支援
3) よい調達を行う (持続可能な調達SP)	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーンのなかで発生している環境問題・社会問題の解消(特に海外) ・リユース品・リサイクル品等の積極的利用
4) よい経済・産業をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール/制度づくり(公正な競争市場の創出)



アジアにおける急速な高齢化と人口オーナス

人口ボーナスの逆の現象に備えることも、SCP政策には必要

	倍加年数
フランス	115年
スウェーデン	85年
英国	47年
ドイツ	40年
日本	24年
タイ	22年 (2001-2023)
マレーシア	24年 (2019-2043)
インドネシア	20年 (2017-2037)
フィリピン	22年 (2028-2050)
ベトナム	18年 (2020-2038)

注：高齢化率が「高齢化社会（7%）」から「高齢社会（14%）」の2倍になるまでの年数。アジア諸国は国連中位推計に基づく。

本セッションの問いへの回答(再掲)

- **環境保全と長期的な利益追求は相反しない。**
 - 短期的かつ近視眼的利潤追求が環境を損なう。
 - 企業活動に長期的視点や多元的価値を組み込むのが、CSRであり、統合報告書(IIRC2013)。
会計に組み込むのが複数評価原理の会計(國部2017)
「三方よし」「認識が世界を変える」
 - 企業経営にいかに直結させるかが重要
- 環境保全と経済発展を両立させるには、**社会全体のルール・制度づくり、トランジションの視点が不可欠**
 - 個々人や個々の企業は、社会システムに「埋め込まれた」存在
 - 社会全体に多元的視点をもたらす一つの動向がSDGs

